

Green Festival 2008

第263回

5月10日(土) 15:00 開演

●並河寿美 ソプラノ・リサイタル

ピアノ/藤江圭子

第264回

5月20日(火) 17:00 開演 (開演時刻にご注意下さい)

●ダンス公演 マイケル・シューマツハと仲間たち「現代ダンスへの誘い」

マイケル・シューマツハ、サイトウマコト、森美香代、ヤザキタケシ、安川晶子

第265回

5月24日(土) 15:00 開演

●知られざるピアノ五重奏の午後

ピアノ/風呂本佳苗 ヴァイオリン/林 泉 ヴィオラ/賤津 進
チェロ/林口真也 コントラバス/林 俊武

第266回

6月1日(日) 15:00 開演

●神戸学院大学吹奏楽部 第22回サマーコンサート

客演指揮/松井隆司

第267回

6月30日(月) 17:00 開演 (開演時刻にご注意下さい)

●狂言と落語のコラボレイト -言葉遊ぶでござる-

古典狂言から『魚説経』 出演/松本薫、島田洋海
書き下ろし新作~落語小咄ごっちゃまぜ~
作/帆足正規 出演/落語・桂よね吉/狂言・茂山正邦、茂山 茂

第268回

7月5日(土) 15:00 開演

●仲道郁代 ピアノ・リサイタル

-モーツァルト ピアノ・ソナタ全曲連続演奏 第1回-

第269回

7月19日(土) 15:00 開演

●大阪フィルハーモニー交響楽団 コンサート

指揮/下野竜也 独奏/長谷川陽子(チェロ)

入場無料

会場/神戸学院大学(有瀬キャンパス)メモリアルホール(9号館) 主催/神戸学院大学 後援/兵庫県・(財)神戸市民文化振興財団 参加/関西元気文化圏

- お申込方法 ◎往復ハガキを使用してください。私製ハガキや2枚のハガキの貼り合せは避けて下さい。申込者多数の場合は抽選になります。
- ・往信裏面に①公演日 ②公演名 ③住所 ④氏名 ⑤電話番号をご記入ください。
- ・返信表面にお申し込みの方の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。
- ・返信裏面は空白のままをお願いします。
- ・1枚につき1公演、1名様のみのお申し込みになります。
- ・受付期間は各公演の1カ月前~2週間前(必着)です。
- ・学齢期に達していないお子さまの申込および入場はできません。

- お申込み・お問い合わせ先
〒651-2180 (郵便番号のみで到着します)
神戸学院大学グリーンフェスティバル係 電話078-974-6105(担当部署:広報・渉外グループ)
- 交通経路と所要時間
 - ① JR「明石」駅より「神戸学院大学行」バスに乗車(約20分)
 - ② 神戸市営地下鉄「伊川谷」駅より「神戸学院大学行」バスに乗車(約15分)
 - ③ JR「朝霧」駅より「神陵台行」バスに乗車、終点下車徒歩約12分
- ※お車でのご来場は固くお断りいたします。

~個人情報取り扱いについて~

入場申込往復ハガキにご記入いただいた個人情報は、申込内容の電話での確認、入場券の発送(抽選の場合の結果通知を含む)、申込み状況の統計分析に限って使用します。

インターネットホームページ <http://www.kobegakuin.ac.jp/> 神戸学院大学 [地域とともに]

関西から
文化力
POWER OF
CULTURE



並河寿美ソプラノ・リサイタル

- 曲目 ●山田耕伴……唄
- 多 忠亮……宵待草
- 成田為三……浜辺の歌
- 武満 徹……小さな空
- 小林秀雄……すてきな春に
- ドヴォルジャーク……歌曲集《ジプシーの歌》作品55
- ブッチェーニ……太陽と空/大地と海/愛の短い物語
- ブッチェーニ……ドレッタの美しい夢（歌劇《つばめ》より）
- ブッチェーニ……私の名はミミ（歌劇《ラ・ボエーム》より）
- ブッチェーニ……氷のような姫君の心も（歌劇《トゥーランドット》より）
- ブッチェーニ……ある晴れた日にかわいいう坊や（歌劇《蝶々夫人》より）
- ブッチェーニ……歌に生き、恋に生き（歌劇《トスカ》より）

大阪音楽大学のご出身、今や日の出の勢いの注目すべきソプラノがフェスティバル初登場です。

一昨年夏に続き、今年3～4月にも再演された西宮の芸術文化センターでの《蝶々夫人》に酔われた方は少なくないでしょう。今回のために時間をかけて新しいプログラムを組んでくださいました。前半は日本歌曲と以前にもご紹介したことのあるドヴォルジャークの名曲。後半は生誕150年記念のオール・ブッチェーニ。歌曲3曲に続いてご存知の名アリアがずらりと並びました。

ダンス公演 マイケル・シューマツハと仲間たち「現代ダンスへの誘い」

- 出演 ●「マイケル・シューマツハ、サイトウマコト、森美香代、ヤザキタケシ、安川晶子

ドイツの名門フランクフルト・ナレエ団で数多くの現代作品の主演を務め、現在はオランダで音楽とコラボレーション（協働）した即興ダンスのあり方を追究する、マイケル・シューマツハ氏を迎え、現代のダンス（コンテンポラリー・ダンス）の魅力を紹介します。関西を代表するダンサーの作品、マイケルと彼らとの共演を通じて、創造性と表現性の最先端を進む身体の魅力にふれていただきますよ。

知られざるピアノ五重奏の午後

- 曲目 ●リース……ピアノ五重奏曲 口短調 作品74
- ゲッツ……ピアノ五重奏曲 八短調 作品16
- シューベルト……ピアノ五重奏曲 イ長調 D.667 (作品114) 「鱈」

ピアノ五重奏というピアノといわゆる弦楽四重奏（ヴァイオリン2、ヴィオラ、チェロ）の編成が普通であり、シューマン、ブラームス、ドヴォルジャークその他の作曲家による名曲が多数あります。シューベルトの「鱈」の五重奏曲は極めてポピュラーな名曲ですが、上記とは異なる編成を取り、ヴァイオリンが1本減って、代わりにコントラバスが入っています。これと同じ編成の他の五重奏は？というクイズはなかなかクラシックを聴いておられる方にも難問かと思えます。古くからグリーン・フェスティバルへお越しの方はフンメルの曲をご紹介したことがあるのを、思い出されるかもしれません。今回はこの編成による別の2曲をシューベルトの名曲（13年ぶり3回目です）と合わせてご紹介します。リースはベートーヴェンの弟子。この大作曲家に関する書物をひもとかれた方はリースの名をご記憶かもしれません。ゲッツはもう少し後の時代の人で36歳で夭折しました。長命であれば今日もっと知られていたことでしょう。どちらの曲も初めて耳にしていた場合でも聴きやすく、敢えて「知られざる名曲」と銘打つ所以です。風呂本さん、林泉さん、賤津さん、林口さんについてはご紹介の必要はないでしょう。林俊武さんは泉さんの夫方で、新真二さん（一昨年のクーセヴィツキーの協奏曲が名演でした）と並んで大阪フィルでトップを弾いておられ、グリーン・フェスティバルへは3回目の登場です。

神戸学院大学吹奏楽部 第22回サマーコンサート

- 3部構成
- 今年のテーマ “We are ENTERTAINER”

一人でも多くの方に喜んでいただけるよう、新入部員含め部員一同精一杯演奏いたします。皆さまのご来場、お待ちしております。

詳しい情報はこちらへ→http://www.geocities.jp/kgu_wind_orchestra/

「狂言と落語のコラボレイト 一言葉を遊ぶでござる」

- 古典狂言から「魚説経」 出演・松本薫、島田洋海
- 書き下ろし新作 ～落語小咄ごっちゃませ～ 作・帆足正規 出演/落語・桂よね吉/狂言・茂山正邦、茂山茂

室町時代から人びとを笑わせてきた「狂言」と江戸時代から人びとを笑わせてきた「落語」。その二つがタッグを組んだ最強の笑いのコラボレイトが実現します。プログラムは、ベテラン松本薫さんが演じる駄洒落連発の「魚説教」。そして帆足正規さん書き下ろしの新作。ただし、新作はまだ稽古中。「桂よね吉さんと茂山正邦・茂兄弟がごっちゃませにからむ」らしいのですが、抱腹絶倒まぢがいなし。ぜひ笑いに来てください。

仲道郁代 ピアノ・リサイタル

- 曲目 ●モーツァルト……ピアノ・ソナタ 第1番 八長調 K279(189d)
- モーツァルト……ピアノ・ソナタ 第2番 へ長調 K280(189e)
- モーツァルト……メヌエット ト長調 K.1(1e)
- モーツァルト……アレグロ 変ロ長調 K.3
- モーツァルト……サリエリの歌劇《ヴェネツィアの定期市》のアリア「わがいとしのアドーネ」による6つの変奏曲 ト長調 K.180(173c)
- モーツァルト……ピアノ・ソナタ 第3番 変ロ長調 K.281(189f)

ベートーヴェンのソナタと協奏曲という2つのおおきな連続演奏を完成させたレジデント・アーティストの郁代さんが、こんどはモーツァルトを披露します。20曲近くある彼のソナタをほぼ制作順に8回にわたりご紹介しますが、モーツァルトのピアノ作品には他にも変奏曲、幻想曲、ロンドなど秀作がありますので、毎回それらから何曲かを混ぜます（最終回では協奏曲をサーヴィスの予定）。1回目は3曲のソナタがメインですが、これらは作曲者20歳直前のもの。余り実演で聴ける機会の少ない8歳頃のメヌエットやアレグロもお楽しみに。

大阪フィルハーモニー交響楽団

- 曲目 ●バーバー……弦楽のためのアダージョ 作品11
- バーバー……チェロ協奏曲 作品22
- シューマン……交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」

一昨年秋から読売日本交響楽団の正指揮者に就任し、着々とレパートリーを拡げて大活躍中の下野氏が久々に5回目の登場。メインは氏がデビューの頃から愛着を示しておられるシューマン。レジデント・アーティストの陽子さんには、ピアノとのデュオが続きましたので、かねてから取りあげてみたいとおっしゃっていたバーバーの協奏曲をお願いしましたら、下野さんが同じ作曲家によるどなたもご存知の名曲をアタマにつけて下さいました。